

安全作業手順書【ウォーターケーブルバリア設置工】

見積もり基準をした危険性の評価			
重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)	○ ほとんど起こらない	△ 起こり得る	× 起こり得る
○ ほとんど起こらない	△ 起こり得る	× 起こり得る	○ ほとんど起こらない
△ たまに起こる (1年に1回程度)	○ 軽微 (かなり小さい)	△ 重大 (中程度)	× 極めて重大 (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	△ 起こり得る (中程度)	× 極めて重大 (かなり大きい)	○ ほとんど起こらない (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
× ×	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛島北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具 ・車両	スコップ、清掃用具一覧、小型移動式クレーン	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、 軍手、皮手袋

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はこうする)			(A)	(B)	リスク
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する 使用機械、工具等の点検を行う しらすんだーの動作確認及び点検を行う 小型移動式クレーンの点検を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 作業前に 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする 手順書に則り	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1			
				免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両 stickers を確認する	○	△	2			
現地調査	ウォーターケーブルバリアの設置箇所を確認する 車輛の配置箇所を確認する	施工に先立ち	調査中転倒し思わぬケガをする	△	△	3	つまづき、転倒しないよう足下に注意する	○	○	1				
			調査などの飛散、または測定用具を現場におきわすれてしまう	△	×	4	ファイルに閉じる。現場から離脱する際は場内を確認する	○	○	1				



車両確認
作業車両準備
作業車両点検
出発準備
出発
規制内進入
車両移動
停止
逃走防止

25.車両回送手順書に則る

使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から 車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
準備工	取り外す支柱に印をつける	チョーク等を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
設置前準備	既設防護柵撤去 ビームを支柱から取り外し、支柱とビームに分け、撤去する	①レールの跳ね返りに注意して ②外す時は作業員同士で声を掛け合い ③変形の弾みでレールが跳ねそうな場合は、レバーで固定し ④規制外に部材がはみ出さないよう注意して ⑤クレーン使用時は手順書に則り	ボルトの緩みに気づかず、跳ね返ったレールで負傷する	△	△	3	2人以上で取り外しを行い、 職長は防護柵全体が様子を確認する	○	△	2
			撤去する際、部材が規制外にはみ出し一般車に接触する	△	×	4	保安員を配置し、保安員の指示に従い作業する	○	○	1
ウォーターケーブルバリア設置	空のウォーターケーブルバリアを配置する	①必ず水は抜いてから運ぶ ②配置する際足に落とさないように注意して	重量物を運搬し身体を損傷する	△	×	4	重いものは二人以上で運搬する	○	○	1
	接続部分を合わせ、専用の接続部品で連結させる	接続後、抜け止めピンが差し込まれているか確認を忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
給水	給水蓋を外して給水する	①水を使用して ②水位が750mm~800mmの範囲内にあることを確認して	給水時、水がこぼれて一般車に飛散する	△	△	3	無理な給水はせず、慎重に作業する	○	○	1
仕上げ	発生材や道具を片付ける	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して	片付け作業やクレーン操作作業が重複し、 作業員同士や、クレーンとの接触を起こす	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う	○	○	1
	清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	掃き掃除やブロー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1
後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/

1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
特記	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から 近い位置に置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1